

■児童・生徒の学力の状況

- 全国学力・学習状況調査の結果から
 - ・国語・算数の全領域において全国平均を下回り、学習の定着に課題がある。
 - ・記述式問題で無回答率が高い傾向にあり、個人差が大きく、学力の二極化・学力差が見られる。
 - ・意識調査の回答から、学校生活への肯定感（89.5%）や協働学習への極めて高い意欲が見られる。
- リーディングスキルテストの結果から、文章を正確に読み取る力や語彙力に課題がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 個に応じた指導法の工夫（自己調整型学習）
- 基礎基本の定着を促す指導の工夫
- 語彙力を高める指導の充実
- 読解力を高める指導の工夫（表現力を含む）
- 主体的に考え表現する力を高める指導の工夫
- 学習の有用感や学ぶ楽しさを感じさせる指導の工夫（振り返りの充実）

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 自己肯定感を高め、幸せに生きる学校
- 各教科等の「見方・考え方」を働かせ、自らの問いや見通しと振り返りを大切にして、主体的・対話的に追究する問題解決学習を推進する。
- 「板橋区授業スタンダードS」の定着・深化を図り、授業の質的向上による確かな学力の定着、及び児童の基礎学力の徹底をめざす。教科横断的な活動を重視し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- 「板橋区授業スタンダードS」を基本に、output型のめあての設定、指導と評価の一体化等の手だてを講じる。
- 授業者は、学習内容と学習活動を分別して計画を立て、児童が自らの学習を振り返ることができるよう、具体的評価基準「ルーブリック」を設定する。
- 振り返り時間を確保し、めあてと自己の学習活動を照らし合わせ、メタ認知能力の向上をめざす。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

- 指導と評価の一体化を図る。
- 児童一人ひとりが「自らの学びの主人公」として、自分の進度や学習方法を選択・調整できる「個別最適な学び（自己調整型学習）」を推進する。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

- 一人一台端末を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実践する。
- 学校の様子等や教材をclassroomを通して配布配布することで、学習内容を保護者・地域と共有する。

視点3

総合的な学習の時間との連携

- 教科横断的な指導計画を作成する。
- 子どもの自発的な疑問を大切にし、探究活動を通して、主体的に学ぶ力や学びを実践に生かす力を育てる。
- 全学年で他学年への学習発表会を開催し系統的に探究学習を行う。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	多様な教育的ニーズへの対応
○「めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」の授業の流れや「Input・Think・Output」の活動を取り入れた授業を行い、板橋区授業スタンダード(S)を定着させる。 ○学びのエリアで連携した取組であるSDGsを年間を通して教育活動に取り入れていくことで、児童の活動意欲を高めるとともに、取組を家庭や地域に発信していく。 ○保育園・幼稚園との交流の機会を設定し、児童が自己の成長や自分の役割に気付き、他者を思いやる心を育む。	○各教科・領域等との関連を図り、ピオトープ等本校の環境を活用した体験や地域の人との交流を積極的に取り入れ、コミュニケーション能力や愛校心を育む。 ○総合的な学習の時間は、全体計画・年間指導計画に基づき、横断的な内容を計画的に取り上げ、問題解決の過程を重視した探究的な学習を展開し、目指す資質・能力を育成する。 ○総合的な学習などにおいて、自己調整型の単元をカリキュラムに設定する。学習目的や達成目標などを児童と共有し、より主体的で深い学びの実現を目指す。	○自己選択型の学習を取り入れることで、自分の得意を生かして、主体的に学習できる環境を整える。 ○個々の特性（視覚優位・感覚過敏・学習上の特性等）に合致した指導法や合理的配慮を全教職員で一貫して提供する。 ○パソコン端末の音声読み上げ機能、文字拡大、キーボード入力補佐などICTを活用して学びの障害を取り除く。 ○縦割り（異学年交流）でのサークル対話や協働的・探究的な学びを取り入れ、考えを深め合える授業づくりを行う。